

平成 29 年度 事業計画書

(平成 29 年 4 月 1 日より平成 30 年 3 月 31 日まで)

昨今の政治経済状況が激しく変化する中で、当財団の運営資金の大部分が基本財産の為替連動型仕組債の利息収入によるものであり、平成 28 年度はその利率にかなりの変動があったが、最終的には当初計画に近い収入が得られ、ほぼ計画に近い事業を実施することができる見込みとなった。平成 29 年度については、国際的な政治状況の大きな変化が継続して起こる可能性のある中で経済環境も変化し、当財団の収入も影響を受ける可能性があるため、その状況を注視しながら対応していく必要がある。

このような状況の中で当財団としては、平成 29 年度は主たる事業である研究助成事業を中心として、これまで長年にわたって継続してきた粉体工学に関する講演討論会の開催、ならびに英文学術誌 KONA Powder and Particle Journal の出版等により、粉体工学ならびに技術に関連した分野の啓蒙、発展に貢献していきたいと考える。

研究助成事業に関しては、KONA 賞の授与について、平成 28 年度より検討を始めている対象者のグローバル化の見直しを具体的実施し、国際的なレベルでの当財団の知名度の向上を図り、その国際的な活動の円滑化を目指す。また、KONA 誌の出版についてはこれまで、その公共性、公益性を高めるために、オンライン学術誌データベース J-STAGE への全論文掲載、オープンアクセス化等を実現してきたが、さらに国際的な投稿、査読、編集をより効率的に進めることを目指して、平成 28 年度に科学技術振興機構(JST)によって採択された KONA 誌のオンライン投稿・査読システムの導入について、欧米ブロックの編集委員会と連携を取りながら実際の運用を進めていく。

さらに、平成 29 年度は、当財団の設立 25 周年特定事業の一環として、1 年間延期された第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを米国で開催すると共に、以前に出版支援を行った Nanoparticle Technology Handbook の初版出版 10 周年の機会にその第 3 版の出版支援を行い、粉体工学分野での研究者、技術者間の国際交流、ならびに日本のナノ粒子工学・技術の世界への発信に貢献していきたい。

I. 助成関連事業

本年度は昨年度と同様に、以下の 4 つの助成事業を継続して実施する。

予算額 2,305 万円 (事業管理費を含む)

1. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞 (KONA 賞)
2. 粉体工学に関する研究のための研究費助成 (研究助成)
3. 粉体工学に関する研究に従事する研究者の育成の援助 (研究者育成援助)
4. 粉体工学に関する研究成果公開の援助 (シンポジウム等の開催援助)

KONA 賞について、当財団設立当初よりこれまで日本人が推薦され受賞しているが、昨年度より海外からも推薦を募り、グローバルベースで、粉体工学の分野において多大な貢献をされた研究者に授与できるような体制作りの検討が図られ、平成 29 年度よりこれを本格的に実施していく予定である。

II. 特定事業

当財団の設立 25 周年記念特定事業として、平成 27 年度より積立てを行い、平成 28 年度は粉体工学に関する講演討論会が第 50 回大会となることもあり、設立 25 周年記念特別講演を東京理科大学藤嶋学長に依頼して本講演討論会に組み入れて実施した。平成 29 年度には、当初平成 28 年度に開催計画されていたものの諸事情により延期となっていた第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを米国で開催する予定である。さらに、2007 年に初版が出版され、当財団で出版支援を行った Nanoparticle Technology Handbook の発刊 10 年になるのを機会に、当財団設立 25 周年記念事業の一環として本ハンドブックの第 3 版の出版を支援していきたい。

予算額 150 万円（設立 25 周年記念特別事業費として積立てを行う）

上記積立てにより本特定事業費予算は平成 29 年度に合計約 410 万円になる見込みである。

1. 第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウム (2. Hosokawa International Powder Technology Symposium) の開催（予算額 310 万円）

当財団の設立 25 周年記念特定事業として当初は平成 28 年度に開催予定されていた同シンポジウムを平成 29 年 10 月頃に米国で開催する。このホソカワ国際粉体工学シンポジウムは第 1 回が 2014 年 9 月にドイツ・アウクスブルクで開催されたが、第 2 回は、当財団が出版している KONA Powder and Particle Journal の米国編集事務局のある Hosokawa International Inc. / Hosokawa Micron Powder Systems の協力を得ながら開催し、米国編集委員会の体制強化にもつながる企画を図っていく。

2. Nanoparticle Technology Handbook の出版支援（予算額 100 万円）

2006 年に主に日本人著者により日本語で出版された「ナノパーティクル テクノロジーハンドブック」の英語版が 2007 年に Elsevier 社から出版され、当財団でその出版支援を行ったが、このハンドブックは 2012 年に第 2 版が出版され、さらに 2013 年にはロシア版も出ている。近年もナノパーティクル テクノロジーに関する関心はますます強くなる傾向にあり、本年英語版初版の発刊 10 年になる機会に、同書の出版社である Elsevier 社からの推薦もあり、当財団設立 25 周年記念事業の一環としてこのハンドブックの第 3 版の出版支援を行う。

III. 財団自主事業

1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

① 予算額 403 万円

② 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選び、第一線の研究者（5～6 名）から最近の研究成果について講演して頂き、その課題に関心をもつ研究者・技術者の参加を募集する。講演と討論を通じて粉体工学の発展に資することを目的とする。毎年 1 回、会場は大阪・東京において隔年開催を原則とする。（平成 29 年度は大阪において開催の予定）

平成 29 年度の粉体工学に関する講演討論会は、平成 28 年度 KONA 賞受賞者の講演を含めて 6 件程度の大学ならびに企業からの講師による講演を中心として、粉体工学ならびに技術に関する情報提供、意見交換等によりその啓蒙、発展を図ることを目指す。

③経費および用務の分担

本講演討論会の企画については粉体技術談話会に委嘱し、そこでテーマの設定、講演者・討論の司会者の選定等を行う。参加費はすべて無料とし、講師謝礼、旅費、宿泊費およびテキスト印刷費などの予算を計上する。

2. KONA誌の発行

① 予算額 688 万円

② 趣旨・内容

KONA 誌は当財団が年 1 回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学及び工学に関する研究論文およびレビューを集め、これらを編集して発行し、全世界の関連する研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布している。KONA 誌はインターネットを通じて無料でダウンロードすることもできる。平成 22 年 6 月から Journal Citation Report に KONA のインパクト・ファクターが収録されている。また、平成 25 年 12 月から JST が運営するオンライン学術論文データベース J-STAGE への掲載も行われている。

平成 28 年度に出版した No. 34(2017)の掲載論文数は 22 編、頁数は 293 頁で、1,100 部を印刷し、国内外に発送したが、次号 No. 35(2018)の出版についても、アジアブロックの企画・編集・査読等を粉体技術談話会に委嘱すると共に、欧米の編集委員会の協力を得ながら、2018 年初の出版を目指して進めていく。

さらに、この度 JST によって採択された KONA 誌出版のためのオンライン投稿・査読システムの導入について、欧米ブロックの編集委員会と連携を取りながら実際の運用を進めていく予定である。

IV. 年報の発行

① 予算額 75 万円

② 趣旨・内容

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果を公表するために発行される。年報は以下の内容を含む。

- (1) 理事長挨拶
- (2) 事業内容と実施状況の概要
- (3) 役員等名簿
- (4) 助成・表彰事業
- (5) 研究成果等の報告

なお、平成 28 年度に J-STAGE に当財団の年報が掲載されることが採択されたため、平成 29 年度初めに出版予定の平成 28 年度年報からは、これらが出版され次第このデータベースに掲載される予定である。

以上